

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット／1階)**

事業所番号	2734400248		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホーム さざなみ城東		
所在地	大阪市城東区今福南4丁目3番64号		
自己評価作成日	令和 7年 2月 3日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokkekka.nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JNO=2794400248&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01">https://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokkekka.nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JNO=2794400248&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和7年3月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様にさざなみで過ごせて良かったと思って頂けるように、おひとりおひとりの思いに寄り添った支援を課題としている。「楽しく・自由に・ありのままに。残された力で暮らす喜び。愛にあふれた家庭的な暮らしを。地域との交流と連携を。」の理念を常に目標とした支援を心がけている。特に、残された力で暮らす喜び。出来る事は積極的に行って頂いている。家庭的な雰囲気の中で、人生の最期までその人らしく生活して頂く事を目指して支援している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当法人は2003年に設立され、大阪府・京都府でグループホーム6つを始め、小規模多機能施設・有料老人ホームなどを展開している。当事業所は2017年に開設され、系列施設と月1回の合同会議(管理者・ケアマネジャー)や職員の相互応援などで連携している。理念に沿って、利用者を抑制せずにやりたいことを楽しんでもらうため、様々なレクリエーション(カラオケ・体操・習字・ゲーム・トランプ・風船バレー・折り紙など)を行っている。また、個々の保有能力に応じて、できるだけ家事全般を担ってもらうことで、生活リズムが良くなるようにしている。協力医療機関連携体制を整え、利用者・家族の要望に沿って、多くの利用者を手厚く看取ってエンゼルケアも行い、家族から感謝されている。2年前に就任した現管理者は、家族を大切に、職員と一体となってより良い事業所作りに取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

**【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】**

# 自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や日々の申し送りの際に理念の確認を行っている。	法人理念「楽しく・自由に・ありのままに。残された力で暮らす喜び。愛にあふれた家庭的な暮らしを。地域との交流と連携を。」を玄関・相談室・フロア内に掲示し、職員会議や申し送り時に確認している。別途2025年度事業所目標「笑顔でつながる和みの心」を立てて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや地域包括、町会長からの情報を頂き、出来る限り参加している。	町内会に加入し、回覧板・事業所敷地内掲示板や運営推進委員会などで地域の情報を得ている。秋には、小学校での「城東祭り」に利用者3名と共に参加し、まただんじりを見学し、年1回地域の防災訓練には管理者が参加している。盛んだったボランティアの受け入れは、コロナ禍以降途切れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム協会から色々と情報を頂き、市役所などで行う認知症フェスタなどで地域に情報発信を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告やご意見をいただいている。	会議は偶数月第3金曜日に定例化し、町内会長・地域包括支援センター職員・家族(3~4名)の参加を得ている。会議では利用状況・活動・事故ヒヤリハットなどの報告を行って意見交換しており、法人が行う年1回の家族アンケートでの意見も紹介している。議事録は全家族に送付し、玄関にも置いて開示している。	今後、会議で配布する運営報告書の中に、研修・会議・委員会などでもできるだけ詳しく掲載して参加者に説明すると共に、全家族に配付する議事録にも記載して理解を深めることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時、担当者の方にお会いしてご意見・指導をいただいている。	区の保健福祉課とは介護保険・生活保護に関する相談やおむつ代申請などで、市の介護保険事務センターとは介護保険・生活保護関連の申請などで関係している。地域包括支援センターとは、空室状況の情報交換や入居相談対応などで関係している。区のケースワーカーが定期的に来所している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行っている。フロアでの意見交換を毎月行っている。	「身体拘束適正化対策マニュアル」「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、3か月毎の委員会と年2回の研修を実施している。玄関・エレベーター・フロア出入り口は安全上施錠し、外に出たがる人は、屋上に一緒に上がって気晴らししている。会議・研修でスピーチロックについて学び、日常的にスタッフ同士で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っている。フロアでの意見交換を毎月行っている。 身体拘束委員会の実施(虐待防止について)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の権利についての研修を行っている。 (特に基本的人権について)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・運営規程に沿って説明を行い同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で要望を聞いたりしている。 (中々、要望に答えられない事もある)	家族には面会時(相談室で30分以内3人まで)・運営推進会議・介護計画説明時・電話や年1回の法人アンケートなどで意見を聞いている。系列グループホーム共通の便りを毎月家族に配付し、同時に当事業所の行事報告と利用者個々の写真5~6枚を送付しているが、運営に関する意見は特に無い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2・3回、スタッフ面談を行っている。 毎日の振り返りシートでスタッフの思いを確認している。	日常の支援活動時や月1回の職員会議、年2・3回の面談などで職員の意見を聞いている。また、法人代表者と部長が週1回来所して職員と話す機会がある。おむつの発注・在庫管理や居室の担当者を設け、職員は分担して運営に関わっている。意見に沿って、食器乾燥機や各種遊び道具などを購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト調整等でスタッフの希望を取り入れている。 時間をみて、スタッフ一人一人と話す機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員に資格取得してもらっている。 法人内研修には参加してもらっているが外部は行けてない。今後の課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などがあれば、積極的に出てもらうようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時、しっかりと話時間を作りご希望等を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや困っておられる事を聞くようにしている。(共感)安心して入居して頂けるように 納得されるまで話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の思いや今までの経緯などを聞くようにしている。ご家族S間も含め、安心して入居して頂けるように話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の思いに寄り添った支援を心がけている。洗濯物たたみ・おぼん拭きなどスタッフと一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事でも変わった事があれば、ご家族様に報告・相談している。意見を聞く為に年1回アンケートを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの公園に出かけたりしている。 近所の入居者様がおられないので、中々出かけたり出来ていない。	入居時に把握した利用者の馴染みの関係は、フェイスシートに記入し職員間で共有している。キーパーソンに確認して、親族やかつての宗教仲間・友人の訪問を受け入れている。自宅や孫の結婚式に出掛ける人も居る。編み物を続けたり、年賀状のやり取りを支援している。入居後に、就労支援の清掃員と馴染みになった人も居る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで入居者様同士過ごされる時に、スタッフが中に入り橋渡ししている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、連絡があったり入居者様の紹介もして頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との日々のサービスの中で、お話の内容や仕草からご家族様とも相談している。	入居前に、利用者が居る自宅・病院・施設を訪問して希望・意向を聞き、フェイスシートに記入して職員間で共有している。入居後は定期的なアセスメントで意向を把握している。意向を表出しにくい人は、家族に聞いたり、表情・仕草などで察している。希望に沿って、家族と一緒に外出したり、移動スーパーなどで好きな食べ物を買うのを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話の中に出てくる今までの生活の様子・思いをスタッフで情報交換して共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での小さな変化に気付けるように努め、自立を促す(出来る事は本人で)などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の生活歴を把握しケアマネを中心に、思いに寄り添った支援を行うように意見交換している。	フェイスシート・アセスメントシート・申し送りノート・日報・モニタリングや「日々の健康状況」記録などを基に介護計画を作成している。計画は長期目標1年・短期目標半年とし、職員会議でのカンファレンスと半年毎のモニタリングを行い、半年毎に見直している。	ケアマネジャー1名が3ユニットの介護計画の作成を担っているため、全家族への計画の説明と話し合いが十分行われていないことが窺える。「計画の説明や家族の意向を確認して欲しい」との家族の声もあり、今後、計画作成者の育成も検討して、課題解決を図ることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中から気づきのケアを介護計画に反映させていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のご希望、思いに添えるように、ご家族様と連絡を取りながらきめ細かな支援心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しつつあるが、有効に活用する方法を模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	さざなみクリニックの定期的な訪問往診を受けていただいている。	利用者全員が医療連携医(内科)と歯科医の訪問診療を、希望者数名が夫々に眼科医と精神科医の往診を受けている。他の専門科の受診は家族対応としている。訪問看護師との連携も順当であり、協力医療機関連携体制(加算)取得により、病状変化時の相談・診療・入院について常時対応としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状況を報告、相談し指示をを仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様、家族様と相談しながら、医療機関との連携を図り、早期での退院を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの講習を何回もおこなっている。 最期のひと呼吸までの支援の大切さを共有している。	重度化や終末期対応について、入居時に説明し同意を得ている。利用者が重度化した時は、医師・家族・事業所との話し合いを重ね、家族の希望に応えながら、看取りケア加算を取得して環境を整え、苦痛を和らげ、清拭と口腔に留意したケアを行っている。昨年は4名を看取り、エンゼルケアも行って家族に感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を目につく所に貼り、連絡系統図も掲示して常に連絡出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、スタッフと共に入居者様にも参加していただいている。	火災・地震・水害に備えた避難訓練を、入居者も参加して夫々年間2回(重複想定あり)行っている。法人によるBCP(事業継続計画)を、実施訓練を参考に、細部に亘って当事業所に適した内容に見直し、職員に周知するとしている。備蓄品は新たに発注している。管理者が地域の防災訓練に参加しているが、地域住民との協力体制については今後の課題と意識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの性格や人生史を考えて、お声かけや対応を考えている。	利用者一人ひとりの歩んできた道程を良く知ることから、生きる思い・生きる力・視点を注意深く捉え、思い込みの一方通行にならない支援が、尊厳の保持に繋がるとし、日々努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、接する事の中で、ご利用者様の思いをスタッフに伝えて頂けるように空間づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事、出来ない事を見極めてスタッフ同士で意見交換し、入居者様の思いに寄り添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1度理美容の訪問を利用している。毎日の服装も自己決定して頂けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルのかたづけ、アルコール消毒等をスタッフと一緒にいき、今から食事が始まる事を認識してもらっている。	業者から届けられた調理済冷凍食を、各階で湯煎・盛り付けし提供している。炊飯と汁物(届いた具材で)、きざみ・とろみは各階で手掛けている。お節やひな節句のチラシ寿司などは手作りし、秋の果物祭り、かき氷まつりや、パン屋さん(年2回)、移動販売車(不定期)でのおやつ購入などの楽しみがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量に注意し記録して足りていない場合には代替食品や原因を考えている。月1回管理栄養士の指導をうけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きなどの口腔ケア時に、口腔内の状態を確認し、報告・相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、サイクルを把握して声掛けをおこなっている。	ほぼ全員がリハビリパンツにパッドを使用しているが、夜間もおむつ状態の人は居ない。尿意のタイミングを計る、仕草に注意するなどから、トイレ誘導での排泄やパッド交換を行っている。退院後のおむつ使用改善に向けて努力している。放尿については、苦勞・工夫を繰り返しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトを召し上がって頂いている。 体操1日2～3回行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる際などは、無理強いせず、尊厳を重視している。また、その際、時間をずらしたりして入浴を試みるようにしている。	週2回の入浴を基本とし、2人介助も含めて全員が浴槽に浸かっている。一人ずつ湯を替えて、清潔を保っている。季節湯・入浴剤の使用はないが、風呂嫌いの人も入浴後は好い笑顔になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝はご本人様のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調不良時の受診もさることながら、服薬情報も把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調に合わせて、洗濯物たたみやトレー拭きなどのお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様よりご家族様の希望が強い。コロナウイルス感染症もあり実施出来ない	コロナ感染症の5類移行後も感染発生があり、予防を重視して外出支援を自粛している。時候・天候・体調をみながら、屋上での外気浴や近くの公園までの散歩を心掛けているが、人材配置の関係もあり、家族も希望する外出には至っていない。	コロナ禍で続いた外出支援の自粛は、総体的に入居者の心身の衰えを招いたとされている。人材配置の難しい現状ではあるが、外出が社会参加にも繋がり、入居者の残された力で暮らす喜びのひとつであり、それを体感してもらう面からも日常的な外出への工夫と努力を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設やご家族様の管理のもとで、生活用品の購入している。時には嗜好品の購入も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を持たれているかについては充電などのお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション等で作成された作品をフロアに飾り付けしている。	各ユニットは明るく、夫々の職員の工夫と努力による設えで、居心地の良いリビング・食堂となっている。就労支援作業所からの3名による週1回の丁寧な清掃作業で、共用空間は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置いたり、利用者様同士のスペースに気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	片付け掃除を行い、使っておられた家具などを使用していただいている。	ベッドと小ぶりの収納家具2点が既設され、個人が持ち込まれた品々、使い慣れた調度品や家族写真・テレビ・仏壇・遺影などが、その人の生きてきた姿を想像させ、ぬくもりと安全の居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口にお名前をつけさせて頂き、ご本人様で確認して頂けるように工夫している。		